

有限会社広野牧場

※2016年3月現在

代表者名	広野 正則	資本金	61 百万円
設立年	2001 年 7 月 6 日	売上高	387 百万円 (2014 年 12 月期)
事業内容	生産 (酪農)、加工・製造 (ジェラート)、観光・交流、飲食	経営規模	田 0.8ha、加工場 40㎡、直売所 20㎡、畜舎 7,500㎡、経産牛 290 頭、繁殖和牛 20 頭
従事者数	22 人 (うち女性 13 人。女性内訳：役員 1 人、管理職 1 人、一般職 8 人、常勤パート 3 人)		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮して取組んでいる制度]</p> 休暇 (産前産後・生理・育児・介護看護)、短時間勤務制度 <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> 施設設備関係 (屋内・野外トイレ・シャワーの設置)、重労働等の業務改善、技術・知識の習得支援		



経営概況

(有) 広野牧場は、経産牛 290 頭、繁殖和牛 20 頭を飼育する酪農・繁殖部門、ジェラートなどの加工・販売を担当する部門、酪農・農業体験などに関わる部門などで運営されている農業法人である。香川県の東部に位置する三木町で 1979 年、現・代表取締役の広野豊氏の父・正則氏が新規就農者として酪農経営を開始した。その後少しずつ経営規模を拡大、2001 年に法人化した。2006 年には豊氏が脱サラ、就農し、経営規模の拡大・

安定化を図るとともに、様々な活動を展開して、経営の多角化・6次産業化を進めてきた。

現在は、農村地域における雇用創出を通じた地域貢献を目指すなど、次世代への継承を見据えた活動に余念がない。酪農教育ファームや消費者交流などに積極的に関わったり、地域の専門家たちと協力してインターンシップの受け入れや新規就農者の支援を行ったりする活動に力を入れているところである。

1. 経営者の意識改革

広野牧場の運営にあたっては、消費者目線をもつ女性の感性が随所に生かされている。実は雇用には際しては特段、性別を意識したことはないというが、結果として従業員 22 人のうち女性が 13 人を占め、来年度の新卒内定者も女性 3 名となっている。なかでも酪農教育ファームにおける農業体験の受け入れや、ジェラート商品の製造販売は、女性の関心を高めるのに役立っているという。

従業員の細やかな視点は社内の各部門で生かさ



れており、たとえば畜産部門では牛の健康管理などの技術が向上し、売り上げが増加した。また、加工販売部門のジェラートショップの運営では、ターゲット層（30代女性）に近い顧客目線の視点が商品開発・イベント企画に功を奏し、「売上アップは女性陣によるところが大きい」と改めて評価している。

2. 女性社員のスキルアップと日々のモチベーション創出

「多能工」の育成をめざし、フォークリフトや大型特殊免許の講習、畜産や食品加工に関する資格など、現場で役立つ資格取得の推進にも熱心である。経営陣が従業員全員と定期的に面談の機会をもち、待遇改善だけでなく希望する研修や資格などの要望を具体的に聞きながら、スキルアップを支援している。また、様々な技能・資格を有する従業員が助け合うことで、現場でのスムーズな業務遂行を実現している。

さらには月例ミーティングや毎日の打合せを通じて相互の作業を把握するなど、日々の情報共有を行うだけでなく、経営陣が参加する会議や研修会、家畜市場などの現場にも一般社員を同行させることもしている。このように外部からの情報・刺激からの影響を受けることで、従業員のモチベーションアップに繋げている。

3. 子育て・出産にかかる制度

女性社員の勤務形態は、本人の希望に基づき、正社員・パートタイマーを選択できるようにしている。結婚・出産といったライフステージの変化に際しては、勤務形態を柔軟に変更する体制も整え、育児や介護・看護などの必要に応じた短時間勤務にも随時対応できる体制を組んでいる。たとえば一般事務や経理、ジェラートの販売・接客担

当といった、短時間勤務に対応しやすい部署に配属させるなどして、適材適所に努めている。

これが実現できるのは、酪農・農業に関わる部門以外にも社内に様々な部門があるからである。一方で雇用増加も図り、労働時間の短縮や有給休暇の取得向上も進めている。

4. 負担軽減の機械化と快適な職場環境へ

作業現場では、相対的に腕力の弱い女性でも作業がしやすいように、機械化を進めている。とくに重量作業の負担を軽減するためである。そのために必要な“フォークリフト講習”も、男女を問わず実施している。

また、より快適な作業環境整備の一環として、たとえば屋内・屋外のトイレやシャワー設備をもつなど、職場環境の改善を図っている。

審査委員の声

酪農を手がける農場は他の畜産経営体と比べ、女性スタッフの比率が高いが、広野牧場は女性スタッフがなんと全体の3/4を占める。その女性たちのこまやかな管理が牛を健康にし、乳量も高いレベルを保つなど経営面でも結果を出している。

仕事の多くが機械化されたとはいえ、体力を要する牧場での仕事に汗を流す女性スタッフに対して、共同代表をつとめる広野正則氏、豊氏は常にねぎらい、コミュニケーションをとっている。「毎日の仕事の励みになれば」と、消費者や子供たちとの交流事業、インターンシップで訪れる若者の指導もスタッフに担当してもらうなど、社員のモチベーションを高めるための配慮も行う。

女性が、畜産分野でこれほど活躍できることを世の中に知ってもらう“モデル的経営体”だろう。